



菅波 茂

31日に開幕するサッカーのワールドカップ。史上最大のスポーツに成長したサッカー大会が日本で開催される。新聞、テレビ、そして週刊誌を見れば総特集の花盛りである。日本中が興奮のつぼに巻き込まれる日が近い。

積極的に関与するの観衆となるのか、立場は二つあるだろう。AMDAは積極的に関与することになった。参加する外国チームのキャンプが20日から本格化するのに合わせて、外国語の電話医療相談を行う。

担当するのはAMDAグループの「AMDA国際医療情報センター」。6月30日まで毎日午前9時から午後8時まで、英、中、韓、スペイン、タイの5カ

## サッカー・ワールドカップ

国語の相談に応じる。また、月、水、金曜日にはポルトガル語、水曜日にはフィリピン語にも対応する。

意欲满满で待機する70人の医療通訳が無料で二つのサービスを行う。一つは患者から症状を聞き、該当する外国語を話せる医師のいる最寄りの医療機関を紹介すること。もう一つは電話を介し、診療時の会話を医師と患者に交互に説明することである。

「国内でも、国際貢献ができることはないだろうか」。この発想にAMDAの相互扶助の思想を取り込む、在日外国人の健康を守るためにAMDAの会員6人が、1人100万円ずつ寄付して設立した無料電話

医事・医療相談機関がAMDA国際医療情報センターである。91年4月の設立以来、93年2月には東京都衛生局、同年5月から東京都健康推進財団より外

国人都民に対する医療情報提供事業及び救急通訳事業を委託事業として受託している。01年4月に内閣府より「特定非営利活動法人」の認証を受けている。

サッカー・ワールドカップはスポーツ外交であり、相互理解の推進に有効である。古くは米国と中国のピンポン外交が有名である。ただし、中南米ではサッカーの勝敗が戦争の契機になったとも聞いている。もう刃の剣である。

今回は近くて遠い国である、日本と韓国の西国民の心理的距離を近づける特別の意義がある。しかも、韓国からのファンはビザなしで来日できるといふ、政府の画期的外交決断もある。相互理解から相互信頼感の醸成へ。主役は国民である。国民参加型外交の良きモデルになることを期待したい。

(アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者)